

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第32回）議事要旨

1. 日時 令和5年3月23日（木）13:30～15:30

2. 場所 文部科学省旧庁舎 6階 第2講堂

3. 出席者（委員）

和田座長、泉委員、小林委員、佐野委員、染川委員、高鳥委員、成瀬委員、
林部委員、三浦定俊委員、三村委員

（オンライン）里中委員、中村委員、銚井委員、森川委員、矢島委員、柳澤委員
（事務局）

文化庁：鈴木文化戦略官、奥文化財鑑査官、篠田文化資源活用課長・古墳壁画
室長、山下文化財第二課長・古墳壁画室室長補佐、津田文化資源活用
課課長補佐、米村古墳壁画対策調査官、西主任文化財調査官、綿田主
任文化財調査官、伊藤文化財調査官、森井文化財調査官、青木文化財
調査官、大澤文化財調査官

（オンライン）今井文化財調査官

独立行政法人国立文化財機構

東京文化財研究所：早川副所長、建石保存科学研究センター長、早川保存科
学研究センター修復材料研究室長、犬塚保存科学研究センター分析
科学研究室長、佐藤保存科学研究センター生物科学研究室長、秋山保
存科学研究センター保存環境研究室長

（オンライン）裏山研究支援推進部研究支援推進部長、前川文化遺産
国際協力センター主任研究員 ほか

奈良文化財研究所：高妻副所長、金田埋蔵文化財センター長、清野都城発掘
調査部副部長、廣瀬都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長、
石橋飛鳥資料館学芸室長、脇谷埋蔵文化財センター保存修復科学研
究室長

（オンライン）内田文化遺産部長、中島文化遺産部景観研究室長、
降幡京都国立博物館学芸部保存科学室長、若杉都城発掘調査部主任
研究員、清野飛鳥資料館主任研究員、田村都城発掘調査部主任研究員、
西田都城発掘調査部主任研究員 ほか

4. 概要

- (1) 開会
- (2) 委員および出席者紹介
- (3) 議事

① 高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の保存活用に関する令和4年度の検討事項について

・米村調査官から資料2について説明があった。

小林委員：本年度中に3回のワーキングを開催した。今後は、施設整備の基本方針、古墳壁画・石室石材保存管理室の考え方、保存環境、展示、周辺施設との役割分担、運用について、より一層の議論を続けたい。

和田座長：本年度は基本計画を作るための調査研究であるが、来年度は基本計画を作るのか。

米村調査官：来年度は、新施設の基本計画の策定に向けてワーキングで検討していく。

森川委員：基本構想の中で「令和11年度までに供用開始」とされているが、タイムスケジュールが非常に重要で、明確にして欲しい。施設の内容・飛鳥地域のゲートウェイ・世界遺産のインタープリテーション施設・一体的な整備について、内容も含めて考える事が重要である。

中村委員：国営飛鳥歴史公園高松塚周辺地区の再整備方針に関する検討委員会を立ち上げた。文化庁と連携しながら公園をどう再整備していくかを検討している。

米村調査官：基本設計、実施設計、工事の過程で発掘調査も必要になると予想される。可能な限り前倒しして進めていければと考えている。公園整備の検討も始まり、足並みをそろえつつ来訪者目線に立って考えていきたい。

和田座長：国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県、明日香村と積極的な連携をとって進めていくよう努力してほしい。

② 高松塚古墳壁画仮設修理施設とキトラ古墳壁画保存管理施設の保存環境について

・佐藤東京文化財研究所保存科学研究センター生物化学研究室長、脇谷奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長から資料3-1について報告があった。

高鳥委員：チャタテムシとカビは関連があることを考慮しながら管理をしていく事が重

要である。外気に近いところの影響が大きいような気がするためその視点からのデータロガー設置場所も検討してほしい。

銚井委員：高松塚の施設で湿度65%が比較的長期間続いているが、その理由は何か。キトラ施設の二重壁の設計法に今後改良点があるのか。二重壁そのものが、本当に有効かどうかの検討はいかがか。

佐藤室長：高松塚施設で湿度65%が比較的長期間続いた件については、原因究明中であるが、引き続き監視していきたい。

成瀬委員：カビの調査を1月にやる意義は何か。

佐藤室長：過去の調査日を踏襲して同じ時期に実施している。時期の間隔を空けて2回実施することから夏と冬の8月と1月に調査時期を設定している。

成瀬委員：これまで冬にカビの発生が認められるようなことはあったか。

佐藤室長：ほとんどカビがないという状況がずっと続いている。

脇谷室長：二重壁の良し悪しについて、すぐに回答することは難しい。年度末には二重壁の除塵清掃を行うが、業者が入れる空間には限界がある。このような課題を次の高松塚の新設等々の設計には盛り込んでいくべきである。

・犬塚東京文化財研究所保存科学研究センター分析化学研究室長、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長から資料3-2について報告があった。

成瀬委員：よく見えるようになった。朱は比較的その位置にとどまるが、銅の化合物は流れてしまいやすいという事か。

犬塚室長：「水銀は非常に鮮明に映っているのに対して、銅は広がりを持っている」という現象やメカニズムに対しての確固たる結論には至っておらず、検討を重ねたい。

柳澤委員：泥をかぶった壁画の他の部分への調査にも蛍光X線分析の二次元マッピング調査は応用可能か。

犬塚室長：現段階では、この方法を適用して他の壁画を分析する計画はない。実施する際は、機械の固定等、様々な検討・準備が必要と考える。

佐野委員：調査研究は長い間の蓄積や努力の上で行われている。技術的な装置、理論の前進によって今回のような成果を得ることができたこと、安全性の評価と分析

条件の評価を行う積み重ねがなされていることは大変嬉しい。

犬塚室長：今回得られた成果は非常に大きなもの。今後、このような有効な手段を継続的に実施できるかを検討していきたい。

和田座長：泥や錆に覆われている壁画が、元はどのような図像であったかを具体的に見られるようになることを期待している。

- ・早川東京文化財研究所保存科学研究センター修復材料研究室長から資料3-3について報告があった。
- ・脇谷奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長から資料3-4について報告があった。

和田座長：国宝や特別史跡に指定されていない目地漆喰の一部を調査に活用することを提案したい。

銚井委員：賛同する。

米村調査官：文化審議会に諮る手続きが必要かもしれないので確認したい。

- ・廣瀬奈良文化財研究所都城発掘調査部飛鳥藤原地区考古第一研究室長、石橋奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長、内田奈良文化財研究所文化遺産部長から資料3-5について報告があった。

林部委員：高松塚古墳の壁画発見時の再現の三次元モデルは有意義である。設定を変えることによって、様々な見せ方はできるのか。

廣瀬室長：いろいろな形での見せ方が可能であるため、活用したい。

泉委員：現状の保管されている色調での閲覧とともに、解体前の閉ざされた状態での壁画の見え方や色調を再現できれば更に良いかと思う。

廣瀬室長：解体前のモデル・修理後のモデル・発見時のモデルの3つが揃った。3パターンをいろいろな形で見比べることや色味調整も可能なため、今後の活用等を検討したい。

- ・米村調査官から資料4について報告があった。

柳澤委員：壁面修理報告書の予定はどうか。

米村調査官：高松塚古墳壁画の修理報告書は、再来年で刊行を目指す。解体・取り

外しの報告書の準備も進めている。

染川委員：来年度以降、保存活用の観点から飛鳥の各施設・各機関との連携や役割分担に

ついて利用者の観点からも考慮した議論をしたい。

三浦（定）委員：目地漆喰を使って実験の実施は大変良いと思うが、非常に不均一な目地

漆喰で全体像が分かるかどうかを検討しながら、検証をしてほしい。

（４）その他

- ・事務局から文化庁の京都移転に伴い、本検討会の開催は令和5年度から京都開催となることを連絡した。

（５）閉会